

令和5年度 西東京市立保谷第二小学校 学校評価 [後期]

■学校教育目標	「自ら伸びる」 ○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
■目指す児童像	● 地域社会との協働により、それぞれの児童の教育ニーズに応じ、次代を担う市民を育む「社会の雛形」としての学校 ● 生涯にわたって心の拠り所となる「地域のふるさと」としての学校
■目指す学校像	● 知・徳・体の調和がとれ、自らの向上を図る「自ら伸びる」児童 ● 他者を尊重し、集団の中で積極的に自らの役割を果たそうとする児童
■目指す教師像	● 専門職としての使命感と誇りをもち、創意工夫に満ちた指導の充実に努め、子どもの心に灯をともしことのできる「プロフェッショナル」の教師
■学校経営上の成果と課題	[成果] 西東京市研究奨励校として、コミュニティ・スクールへの円滑な移行を果たし、複合単元「市民科」におけるリアルな地域課題を通して、児童の「学び方」「考え方」の学びを進めた。 [課題] 地域拠点の役割を果たすため、2軸「花」「安全・安心」を一層推進する必要がある。そのため、後者に関して、保護者や地域住民も参画する、かつてない「避難所開設訓練」を実現する。

関連 教育 目標	中期 経営 目標	短期経営目標	具体的方策	質問内容(教…教職員 児…児童 保…保護者)			教員の結果(%)					児童の結果(%)			保護者の結果(%)										
							A	B	C	D	対象外	A	B	無回答	A	B	C	D	不明						
よく考える児童の育成	教育効果の向上	基礎・基本の完全習得	朝学習でのモジュール型短時間学習により、基礎・基本事項の習得を継続的に図る。 ● 漢字 ● 計算 ● タイピング	①	教	朝学習を有効に用いて、計画的に基礎・基本の定着を図りましたか。	76.5	5.9	0.0	0.0	20	94.1	5.9	0.0	33.6	46.9	17.4	2.1	0.0						
					↑ 2.4		±0.0		↑ 2.4	↓ 0.9	↑ 1.4	↓ 0.5	↑ 1.7		↓ 1.7		±0.0								
					[状況]	● 週3回の朝学習を、漢字や計算の基礎・基本の習得に充て、全校規模の確認テストを通して定着を図りました。 ● 全国学習・学力状況調査における本校の平均は、全国平均を 15 ポイント超えており、着実に学力が伸びています																			
		各教科等を横断させたカリキュラムマネジメントの実施 [横系]	各教科等の指導内容を横断させ、教育効果を向上させる。 ● 言語活動の推進 ● 道徳科の充実	②	保	家庭学習の中で、お子さんは、漢字や計算の基礎・基本ができていますか。	[取組]	● 15 分間の朝学習をモジュール型短時間学習として教育課程に位置付けて、計画的に基礎・基本を定着させてきた取組を継続するとともに、年3回の東京ベーシック・ドリル確認テストを校長が直接採点し、定着の進捗を管理します。																	
					教	国語科の言語活動など、各教科等を横断した総合的な学びを進めましたか。	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	91.3	8.7	0.0	29.9	44.5	21.8	3.8	0.0						
					↑ 11.8		±0.0		↓ 11.8	↑ 2.8	↓ 2.8	±0.0	↑ 1.7		↓ 1.4		↓ 0.3								
		各教科等を縦断させたカリキュラムマネジメントの実施 [縦系]	6年にわたる「課題改善カリキュラム」を進め、漢字や関数の系統的な理解を促す。 ● 漢字の意味 ● 図や表の活用	③	児	自分の考えを友達に話したり、友達の考えを参考にしたりできましたか。	[状況]	● 国語科で学ぶ言語活動(インタビュー・メモ・発表など)が、他の教科・領域における自立的な活動を支えています。 ● 「市民科」単元の開発を通して、児童が各教科等をまたいで問題解決を図る先進的な取組を推進しています。前期に続き、「生産・販売」「金融・経済」「起業・商品開発」など、現代的な諸課題に係るかつてない学びを実現しました。																	
					保	お子さんは、コミュニケーションを通じて、考えを相手に伝えることができますか。	[取組]	● 「市民科」単元の開発を通して、それぞれの児童が各教科等をまたいで問題解決を図る先進的な取組を推進します。そのために、6 年間にわたる系統的な言語活動を通して、他者と関わりながら自ら学ぶ基盤を確立していきます。																	
					教	漢字や算数科の数量関係について、既習事項に基づく系統的な指導をしましたか。	86.7	0.0	0.0	0.0	13.3	91.3	8.7	0.0	25.4	54.0	17.7	1.8	1.1						
		↑ 4.3		±0.0		↓ 4.3	↑ 2.0	↓ 2.0	±0.0	↑ 5.0		↓ 4.7		↓ 0.3											
		ギガスクール構想の具現化	個別最適化された学びの実現	文房具として日常的にタブレット端末の活用を進める。 ● 家庭学習との連携 ● 情報モラル	④	児	これまでに学習してきたことを、新しい学習に生かすことはできましたか。	[状況]	● 伝統的に苦手とされる算数科の「割合」を、図表を用いて、その数量関係を読み解く指導を、「課題改善カリキュラム」として具体化しました。少人数指導を通して系統的な指導が進み、図表の活用による根拠ある立式を支えています。																
						保	お子さんは、過去に学習したことを、新たな学習に自ら生かすことができますか。	[取組]	● 漢字と割合の「課題改善カリキュラム」では、教科書を徹底活用し、参照すべきページを示し、「ターゲット問題」を選定して、反復学習できるよう図りました。来年度の教科書改訂に応じ、記載内容を全て改め、遅滞なく指導にあたります。																
教	教材の電子化も念頭に、タブレット端末の日常的な活用を図りましたか。					80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	93.5	6.5	0.0	31.6	50.4	10.3	3.2	4.5							
↑ 17.7				↓ 11.8		↓ 5.9	↑ 4.5	↓ 4.5	±0.0	↑ 0.9		↓ 2.8		↑ 1.9											
自立した学びを支える「学び方の学び」「考え方の学び」を、各教科等に応じて進める。 ● 調べ方・まとめ方 ● 思考ツールの活用	⑤			児	知りたいことを調べるとき、本やタブレットを使ったり、他の人にたずねたりしましたか。	[状況]	● 自宅で事前に調べ、学校でその知見を集団検討に生かす「反転学習」が定着し、自立的な学習が進んでいます。 ● タブレット端末による外部機器の制御を全校児童が経験するとともに、ドローンやメタバースの導入を果たしました。																		
				保	子さんは、タブレット端末を、適切に学習活動に活用することができますか。	[取組]	● 前期学校評価を受け、タブレット端末など情報機器に係る情報モラルについて、道徳授業地区公開講座の機会に、踏み込んだ内容の講演会を開催しました。危機管理の視点から、家庭教育との連携・協働を図っていきます。																		
				教	書籍や辞書、タブレットを用いた検索、インタビューによる調べ学習を進めましたか。	100.0	0.0	0.0	0.0	11.8	93.0	7.0	0.0	22.4	38.6	26.8	10.6	1.6							
↑ 23.6				↓ 11.8		↓ 11.8	↑ 2.9	↓ 2.9	±0.0	↓ 5.5		↑ 5.0		↑ 0.5											

思いやりのある児童の育成	心に寄り添う指導の実現	「あったか学校」の実現	ユニバーサルデザインによる学習環境づくりを通して、全ての児童の学びに寄り添う。 ●机・椅子のサイズ ●視覚刺激・聴覚刺激の低減	⑥	教	教室の壁面やロッカーの整備、机・椅子のサイズ調整など、環境の整備をしましたか。	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.3	10.7	0.0	29.8	54.6	9.1	0.3	6.2
					↑ 5.5		± 0.0		↓ 5.5	↑ 1.3	↓ 1.1	↓ 0.2	↑ 2.9		↓ 3.6		↑ 0.7		
					[状況]	●全ての児童の机・椅子のサイズの個別最適化を徹底し、学習活動への専念、校内の安定化を実現しました。 ●全ての特別教室と倉庫を徹底的に整理し、各学年の備品を収納したことで、教室に空間的なゆとりが生じました。													
			[取組]	●ユニバーサルデザインの観点から、特別教室においても、教室の前壁面への掲示を避け、視覚刺激を低減します。 ●聴覚刺激の低減のために、全ての机・椅子の脚に取り付けたリサイクルのテニスボールを、全て交換します。															
			教育相談機能の充実を図り、具体的方策を保護者と共有する。 ●カウンセリング ●ケース会議の充実	⑦	教	教育相談の手法を用いて、児童や保護者のニーズに応えられましたか。	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	97.5	2.5	0.0	34.2	56.0	8.0	1.2	0.6
					↑ 11.8		± 0.0		↓ 11.8	↓ 0.7	↑ 0.7	± 0.0	↑ 1.7		↓ 2.0		↓ 0.3		
[状況]	●全員面接やアンケートを通して児童の内面を把握し、スクールカウンセラーの助言をもとに組織的に対応しています。 ●学校生活支援員などの職員を組織化して、登校支援の居場所「COCOLO ルーム」を設け、順調に運用しています。																		
[取組]	●困り感のある児童へのオーダーメイドの対応を重視して、保護者や関連機関も参画する「問題解決型ケース会議」を実施します。合意に基づく組織的かつ具体的な手立てを、各々の関わりで実行し、定期的に評価と修正を行います。																		

たくましい児童の育成	健やかな生活習慣の形成	健康づくりと体力づくりの推進	食育を推進し、栄養・運動・休養のバランスのとれた生活の基盤とする。 ●食育指導 ●残菜の削減	⑧	教	食育を通して、児童の食体験を広げ、残菜を減らすことができましたか。	66.7	13.3	0.0	0.0	20.0	88.8	11.2	0.0	36.6	39.2	18.6	4.7	0.9
					↓ 8.2		± 0.0		↑ 8.2	↑ 4.0	↓ 4.0	± 0.0	↑ 2.0		↓ 2.9		↑ 0.9		
					[状況]	●特別メニューの開発を通して、食への関心を喚起するとともに、食体験の幅を広げる工夫をしています。ウクライナからの避難者との平和交流学习の機会を捉えてボルシチを提供するなど、教育活動にリンクした給食を心掛けています。													
			[取組]	●日々の残菜量を追跡調査しながら、児童の個人差に配慮しつつ、必要な栄養量に向き合えるよう、継続的な指導に努めます。米の残菜が減少に転じている好機にあって、バランスよく食べることの重要性を継続的に伝えていきます。															
			体力向上における、「遊び」の果たす役割を重視し、運動の日常化を図る。 ●用具の整備・購入 ●地域と連携した投能力の向上	⑨	教	児童集団の遊びの体験を広げ、外遊びを促すことができましたか。	26.7	73.3	0.0	0.0	0.0	74.7	25.3	0.0	52.8	31.3	8.8	5.3	1.8
					↑ 5.8		± 0.0		↓ 5.8	↑ 3.0	↓ 2.7	↓ 0.3	↓ 1.0		↓ 0.3		↓ 1.3		
[状況]	●水球やカバディの日本代表を招いての体験的な活動を通して、スポーツの意味や価値を実感することができました。 ●MUFG PARK と連携し、第6年学年のマラソン大会や、西東京市主催のタグラグビー大会で有効活用しました。																		
[取組]	●個人内評価の重視へのシフトを図り、全国体力・運動能力調査の結果を全児童分、個票にして配布し、まずは自分の記録更新に挑むことで、スポーツライフの充実を促しています。用具を揃え、遊びと体育の好循環につなげます。																		

伸びる児童の教育環境づくり	地域に開かれた学校の実現	コミュニティ・スクールの持続可能な運営	教科「市民科」を設け、地域の教育力を用いた地域教材により、総合的・実践的な問題解決力を高める。 ●花プロジェクト ●地域活性化事業	⑩	教	児童の発達段階に応じて、総合的な問題解決学習の単元開発を図りましたか。	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0	93.8	6.2	0.0	47.8	43.7	5.0	0.0	3.5
					↑ 5.9		± 0.0		↓ 5.9	↑ 4.0	↓ 4.0	± 0.0	↑ 1.9		↓ 2.9		↑ 1.0		
					[状況]	●職場体験から地域活性化プロジェクトに発展した柳沢北口商店会との連携、金融・経済教育から起業プロジェクトに発展した三菱 UFJ 銀行や武蔵野大学との連携など、「市民科」を介して、外部機関との強固な接続ができました。													
			[取組]	●実験的に進めた「市民科」の単元開発が、従来の教科指導を一層、意義あるものにする好循環にあります。それぞれの分野ごとに、単元を全学年に系統的に配置・整備し、外部機関を含む地域社会との互恵的な連携を深めます。															
			安全・安心を学校運営の基盤とし、地域ぐるみで「考える安全教育」を推進する。 ●あんぜんの日 ●安全マップづくり	⑪	教	児童が、安全・安心を我が事としてとらえ、自ら退避行動をとれる指導をしましたか。	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	98.3	1.7	0.0	36.9	54.6	2.7	0.0	5.8
					↑ 5.9		± 0.0		↓ 5.9	↓ 0.7	↑ 0.7	± 0.0	↑ 3.1		↓ 3.2		↑ 0.1		
	[状況]	●総合防災訓練・避難所開設訓練「あんぜんの日」を、柳沢中と共催しました。コミュニティ・スクールとして、児童・生徒・保護者・地域住民がともに、自前の「アクションカード」を用いて避難所を運営する市内初の試みを、公開しました。																	
	[取組]	●東京都安全教育推進校として、安全教育に係る先進的な事例を提供するという責務を果たすため、「あんぜんの日」の取組をリーフレット「地域総がかりの災害安全教育の推進」にまとめ、都内の全区市町村に提供します。																	
	指導環境の充実	校務改善による働き方改革の推進	校務の合理化により、職員が児童と向き合う時間を創出する。 ●IT化の推進 ●外部人材の組織化	⑫	教	校務の改善は進んでいると思いますか。	35.7	57.1	7.1	0.0	0.0	86.0	14.0	0.0	39.8	45.1	3.2	0.0	11.9
					↑ 4.1		↑ 1.5		↓ 5.6	↑ 2.0	↓ 2.0	± 0.0	↑ 2.7		↓ 3.9		↑ 1.2		
					[状況]	●朝のモジュール学習を導入し、基礎基本の定着と時数確保を両立させ、教員が児童と向き合う時間を増やしました。 ●学年をまたぐ教科担任制を進め、教科の専門性の向上と、集団指導体制の確立を図り、指導効率を高めています。													
	[取組]	●学校生活支援員、スクールサポートスタッフ、副校長業務支援員、学生ボランティアに加え、校内別室指導支援員や学年教育アシスタントといった新たな配置人材も、事務室を中心に組織化し、校務を適正かつ円滑に運営します。																	